

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
1	大阪大学 ショセキカブ プロジェクト	ドーナツを穴だけ 残して食べる方法	ものを考える方法や技術を高めるためには、題材は何でもよい。正しい答えとか、唯一の解答があるとも限らない。ところで、書名に対する君の答えは？	2	O1	1
2	ソフォクレス	オイティプス王	知らないうちに、父を殺していました。いつの間にか、母親を妻にしていました。衝撃の事実が少しずつ明るみになっていく緊迫感は、2000年以上前の作品とは思えない。	81	I1-3	345
3	マーク・ト ウェイン	不思議な少年	16世紀オーストリアを舞台に、サタンという名の美少年が登場して……。読みながら、幸せの意味をゆっくりと考えてみるのもいい。	81	I1-3	367
4	中島敦	李陵	匈奴の捕虜となった漢の勇将李陵の悲劇を中心に、彼を弁護したために宮刑に処せられた司馬遷の人生をからめて描く。人間の「運命」について深く考えさせられる一冊。	81	I1-7	145-1
5	島崎藤村	夜明け前	幕末・明治維新时期の中山道の馬籠宿が話の舞台。主人公の青山半蔵は島崎藤村の父がモデルとなっている。時代の転換期という雰囲気は木曾の山中にも伝わり、主人公も苦悩しつつ激動の中に身を投じていく。読み応えのある長編小説だ。	81	I1-7	24-2~5
6	内村鑑三	後世への最大遺物	この書籍は、明治27年に箱根で行われた講演をもとにした書籍である。その中で内村は、後世へ何を遺すべきかという問題について明快に語っている。「生き方」を考えさせる名作である。	81	I1-9	119-4
7	アインシュタ イン	相対性理論	20世紀最大の科学者のひとりであるアインシュタインの理論は、時間や空間に対する概念に革命をもたらした。解説書籍も無数にあるが、北野生には原論文も手にとってほしい。	81	I1-9	934-1
8	田中正人	哲学用語図鑑	例えば君は「正義とは何か」を定義したり、誰かと議論したりできますか？ できない人は、この本をめくってみよう。なるほど、そう説明すればわかるのか！ あははは、このイラストはなかなか面白い！ 知らず知らず、人類の知の体系が身についていく。	103	T4	1
9	入不二基 義	哲学の誤読—入 試現代文で哲学 する！	本書は、大学入試に出題された哲学者の文章を取り上げ、それを徹底的に精読しようという試みである。本書を読めば、哲学的文章の読み方といったものを会得できるはず。現代文の受験参考書と哲学入門書の橋渡しをするような一冊。	104	I4	1

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
10	鷺田清一	じぶん、この不思議な存在	平易な新書。軽いタッチで書かれていて理解はやさしい。怪我をしてはじめて自らの身体の実在に気がつくように、不都合が生じて「じぶん」は意識される。多くの人にとって、高校生活は自分を捉えなおす機会であると思う。自分を捉える座標軸のようにして読んでほしい。	104	W2	1
11	野矢茂樹	無限論の教室	有限な人間が無限をどう扱うのか。語り口が面白く、高校生でも読みこなせる。	111	N1	1
12	和辻哲郎	風土	自然に対するとらえ方を教えてくれる名著。古い本ではあるが、なるほどと思わせる説得力は色褪せない。	121	W1	5
13	木田元	反哲学入門	社会科の教師は必ずしも世界史・日本史・地理・政経・倫理のオールラウンダーではありません。しかし、倫理の苦手な高校教師でもこの本を読めば、ギリシア哲学からニーチェまでをカッコ良く語るすることができます。つまり高校生でも十分読みこなせる好著です。	130	K6	1
14	プラトン	ソクラテス(ソクラテス)の弁明	古代ギリシアの哲学者プラトンが、ソクラテスの裁判を描写したもの。師のソクラテスは、「アテナイの国家が信じる神々とは異なる神々を信じ、若者を墮落させた」などの理由で公開裁判にかけられることになり、弁明するが、死刑の判決が出された。脱獄は可能だったが、「単に生きるのではなく、善く生きる」という意志を貫いて死ぬ。文章は平易で読みやすい。	131	P1	5b
15	難波江和英 内田樹	現代思想のパフォーマンス	自分たちが生きている時代の「知の巨人」を理解し、それを消化して自分の生き方に反映することはとても難しい。「ロラン・バルト」「レヴィ・ストロース」「サイード」「ソシュール」「フーコー」「ラカン」が解説され、さらに「実演」されていく一冊。	133	N2	1
16	河合隼雄	こころの処方箋	山あり谷ありであろう高校生活、苦しくなったらぜひこの本を開いてほしい。題名どおりの本である。ものの見方・考え方を変えると同じ状況もまた違って見えてくるはずである。	140	K3	2
17	ダニエル・カーネマン	ファスト&スロー	高いモノは買い渋り、安いモノはどんどん買う。人間は本当に単純で合理的なのか？ 近年の経済学は、心理学的な要素を取り入れ、時に非合理的な現象を起こす人間存在を理解しようとしている。ノーベル経済学賞を受賞した著者から、人間の意志決定の真実を学ぼう。	141	K5	1-1~2
18	リチャード・E・ニスベット	木を見る西洋人 森を見る東洋人	「パンダ・サル・バナナ」このうちどの二つがより近いのか。「パンダ・サル」と答えたあなたは西洋人です。日本人はディベートが苦手、自分の意見を主張しないなどと批判的に言われるが、果たしてその批判はまともなのか。西洋的な世界の把握の仕方もあるれば、東洋的なものもある。	141	N2	1

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
19	新宮一成	夢分析	著者は北野OBの精神医学者。誰もが見るような「空を飛ぶ夢」「墜落する夢」などは、一体どういう意味を持つのか？豊富な実例を挙げながら夢の本質に迫っていく。	145	S6	1
20	岸田秀	ものぐさ精神分析	「人間は本能の壊れた動物である」 現代社会の矛盾をつく名著に挑戦しよう。	146	K6	1
21	森毅	まちがったっていいじゃないか	北野OBの数学者、評論家。2010年7月に亡くなった。こんな人が先輩にいると思うと、気持ちも随分楽になるだろう。人生には寄り道が大切なことを教えてくれる。	159	M9	1
22	橋爪大三郎	教養としての聖書	聖書に何が書いてあるか知ってますか？別に神様へのお祈りの言葉がならんでいるわけではないです。むしろ物語的な魅力にあふれています。とりあえず開いてみましょう。	193	H1	1
23	ジャレド・ダイヤモンド	銃・病原菌・鉄	ある大陸の人間が奴隷とされ、それを別の大陸の人間が酷使する。それは、人間の能力が一方では劣り、一方では優れていたからなのか。歴史を動かす根本要因を考える、壮大な視点の書。洗い中身の割には、読み出したら面白い、大変なロングセラー。	204	D1	1-1~2
24	加藤陽子	それでも、日本人は「戦争」を選んだ	東大教授が高校生に語った授業の記録。教授は、1930年代の日本は9.11同時多発テロ事件後のアメリカと似ているという。中国との戦争は討匪戦、すなわちテロとの戦いだ、悪いのは条約を守らない中国だと、大半の日本人が正義の「戦争」だと信じていた。史料を読みこんだ歴史家が現代史研究の最前線を伝える授業は新鮮だ。	210	K104	1
25	中沢新一	大阪アースダイバー	日常生活にとけ込んでしまい、ふだんは意識しない風景や地名にも、すべて歴史的意味がある。ちょっと斜めに大阪を眺めてみよう。	216	N15	1
26	ジル・ヴァン・グラスドルフ	ダライ・ラマ	チベット仏教は日本では遠い存在だが、その教主であるダライ=ラマがどのような存在か、理解できている人も少ないだろう。13世の死から14世の時代全体を描き、現代中国の理解に必須の一冊。	222	V1	1
27	塩野七生	ローマ人の物語	ローマがなぜあれほどの大帝国となり、なぜ減んでいったか。それを知ることは、現代の世界を見る眼を養うことにもつながるだろう。	232	S2	1-1~15

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
28	中島岳志	中村屋のボース	日本に亡命し、新宿に生活し、アジア解放の夢に突き進んだボース。日本の帝国主義がアジアとどう関わったか、考えさせられる。	289	B2	1
29	後藤正治	天人・深代惇郎と新聞の時代	丹念な取材と主人公への柔らかな眼差しが、深代という優れた新聞コラムニストの生涯と魅力を浮かび上がらせるノンフィクション。明日のためになすべきことを考えさせるジャーナリストの仕事の意味も再確認したい。	289	G18	1
30	ハインリッヒ・シュリーマン	古代への情熱	トロヤ戦争の物語を絵本で読んだ少年がトロヤの発掘を志した。長年にわたる猛烈な勉強(特に語学の勉強)と経済的苦闘の結果、ついにトロヤやミケーネの遺跡を発掘した。現在批判されている面もあるが、感動の記録であることには変わりない。	289	S6	3
31	アマルティ ア・セン	人間の安全保障	真の豊かさとは何か。GDPで計れないものもある。ノーベル経済学賞をとったインドの学者が、未来への設計図を示す。	319	S18	1
32	堂目卓生	アダム・スミス	自由主義経済学の基礎をつくったアダム＝スミスだが、かれは本当に競争万能主義者だったのか？ 答えは『国富論』ではなく『道徳感情論』にある。格差が問題視されている今、彼の思想を読み直したい。	331	D2	1
33	竹内洋	社会学の名著30	事実は小説よりも妙なことがあるし、現実には人間の想像よりも豊かだと思ふ時がある。社会学の魅力は見慣れたものごとに対する見方を、一変させる可能性にある。30冊の名著の解説は、そんな社会学に入門するためのやさしいハードルである。	361	T11	2
34	高木仁三郎	市民科学者として生きる	原子力発電が非常に問題の多いテクノロジーだということ、一生涯を賭けて訴え続けてきた核科学者の自伝。高木仁三郎は、科学と社会というテーマを、いわば単身で引き受けて現場で闘い、著作で訴えてきた。著者は2000年に志半ばで亡くなったが、彼の訴えから学ぶことは今も多い。	402	T14	1
35	西成活裕	渋滞学	人間社会の至る所に生じる渋滞。なぜ、起こり、どうすれば解決するのか。薬を処方して病を治していくような、楽しい研究。	410	N23	1
36	結城浩	シリーズ「数学ガール」	現代数学入門。数学書としてとても面白いが、ライトノベルでもある。女の子の語りで進む形式は、受け狙いの突飛なものに思われるかもしれないが、実は40年も前に先例がある。	410	Y15	1~

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
37	サイモン・シン	暗号解読	暗号解読については、この性質上、あまり表に出るものではないが、先の第2次大戦でも、歴史上決定的な役割を果たしている。また、現代では、インターネットの隆盛を支えているのも「暗号」の利用である。暗号には、暗号化の問題と解読の問題があり、そのあたりの歴史的な過程がみごとな筆致で描かれている。	412	S6	1
38	サイモン・シン	フェルマーの最終定理	数学は決して無機質で味気ないものではない。1人の数学者が1つの証明を完成させるまでのドラマを通じて、そこには感情が渦巻き、感動があることを知ってほしい。	412	S6	3
39	リチャード・P・ファインマン	ご冗談でしょう ファインマンさん I・II	ノーベル物理学賞受賞者である著者の自伝的なエッセイ。数式なし、青春時代のユーモアあふれる話ばかりです。	420	F8	2-1~2
40	朝永振一郎	物理学とは何だろうか	あまり見かけない物理少女や、こちらは時々いる物理少年には、ぜひ本書を手にとってほしい。ノーベル物理学賞の受賞者としても名高い著者が、晩年にじっくり時間をかけて一般向けに物理を語った書物です。講演調なので、教科書より読みやすいスタイルですが、内容はとても高度です。	420	T5	6-1~2
41	湯川秀樹	目に見えないもの	ノーベル物理学賞受賞者によるエッセイ。一流の人はどんなことを考えているのか参考になる。	421	Y1	4
42	セオドア・グレイ	世界で一番美しい元素図鑑	図鑑ブームの火付け役の一冊。元素の性質や用途などより「美しさ」に焦点を当てたところが新しい。ドーンと大きく載った元素の写真は本当に美しく、意味もなくつい開いてしまう本。	431	G3	1
43	ホーキング	ホーキング、宇宙を語る	難病と闘いながらも「車椅子の天才」「アインシュタインの再来」と評された一流の物理学者が、宇宙について語っている本。出版とともに全世界が驚嘆した古典的名著でもある。	440	H14	1
44	福岡伸一	世界は分けてもわからない	語り口の面白さという点では、福岡さんのこの本がピカイチかもしれません。分子生物学の解説書でもあり、その歴史を辿る本であり、著者自身の研究の来歴を語る本でもあり、そして一級のミステリーでもあります。嘘だと思ったら自分で手にとって確かめて下さい。	460	F3	2
45	ジェイムズ・D・ワトソン	二重らせん	遺伝物質DNAの二重らせんモデルはどのように発見されたのか。DNAの構造の解明は20世紀の科学界における最大の出来事の一つである。ノーベル賞を受賞した分子生物学者ワトソン博士がつづる赤裸々な感動の報告書である。	464	W1	1

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
46	チャールズ・ダーウィン	種の起源	ビーグル号の世界一周航海で見聞した各地の生物種のありさまをもとに、特にガラパゴス諸島での種の多様性に注目して、自然選択説を柱とする生物進化論を確立した、不朽の科学書である。	467	D1	2-1~2
47	ドーキンス	進化とは何か	ダーウィン進化論主流派の旗手による入門書。生物のとてつもない多様性を支える「進化」とよばれる現象の本質に迫り、一般に流布した誤解をといっていく。	467	D4	4
48	吉川浩満	理不尽な進化	進化論は素人でも知っている用語あるいは概念だろう。しかし、専門家どうしの論争が長期にわたって続いてきた学問分野でもある。著者が素人進化論の問題点を指摘し、専門家的進化論の核心をえぐりだす。	467	Y7	1
49	ダニエル・E・リーパーマン	人体600万年史〈上〉〈下〉	人類進化研究の第一人者が手がけた書。悠久の過去が、私たちの身体をいかに形作ったかを理解することは、自分自身の未来を理解し、ヒト全体の健康の向上に直接役立つことにつながる。	469	L2	1-1~2
50	本川達雄	ゾウの時間ネズミの時間	動物のサイズによって寿命が違い、時間の流れ方も異なっている。ベストセラーがロングセラーとなり、もはや「古典」の域に達した名著。	481	M8	1
51	茂木健一郎	脳と妄想	人間の脳が生み出す「意識」は目の前の「現実」を越えて、この世のどこにも存在しない「妄想」をも志向する。人間にとってこの「妄想」というものがいかに重要であるかについて、著者は説得力のある論を展開している。	491	M13	3
52	NHK「東海村臨界事故」取材班	朽ちていった命	1999年茨城県東海村での臨界事故。大量の放射線を浴びた患者を前にした医療スタッフの苦悩が描かれる。人知の及ばぬ放射線の恐ろしさを、私たちは改めて肝に銘じておくべきではないか。	493	N8	1
53	レイチェル・カーソン	沈黙の春	環境汚染を考える上では欠かせない一冊。1962年発表の作品だが、いまだに古びない。同じような環境破壊が、グローバル資本主義によって、先進国から後進国へ「輸出」されている。	519	C3	1
54	大澤真幸	美はなぜ乱調にあるのか	芸術は個人の孤独な作業だが、他者どう関わるのか。国語の教科書にも頻出する社会学者の芸術論。よく噛んで中央突破で読み切ってほしい。	701	O3	1

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
55	白矢勝一 吉留邦治	佐伯祐三 哀愁の 巴里	北野に学び、絵を描き、フランスで客死した佐伯祐三の精神と芸術を追う。	723	S23	1
56	石子順	平和の探求 手塚 治虫の原点	マンガの神様と呼ばれる手塚治虫の作品は、反戦・平和に貫かれている。北野の大先輩のマンガに込められたメッセージを教えてもらおう。	726	I1	3
57	佐野洋子	百万回生きたネ コ	これは大人の、読むと必ず泣けてくるお薦めの絵本です。生きることを考えさせられます。愛はただ与えられるだけではだめで、与えることを知って初めて意味を持つのだと気づきます。周りから深く愛されている北野生に是非！	726	S11	1
58	沢木耕太郎	キャパの十字架	「崩れ落ちる兵士」という有名すぎる写真。しかし、この写真には多くの謎があった。	740	S5	1
59	門田隆将	甲子園への遺言	プロ野球の伝説の打撃コーチの高島導宏の生涯を描いた本。多くの有名なプロ野球選手を育てあげた後、彼は高校の教員になり監督として甲子園を目指す、しかし、…。野球に興味がある人だけでなく、夢の実現に突き進もうと頑張る人や将来に悩みを抱えて模索している人などに読んでほしい。	783	K7	1
60	金田一春彦	日本語	日本語研究と言えば金田一京助・金田一春彦・金田一秀穂の「金田一族」。中でもこの本は、日本語の全体像を教えてくれる。英訳もあるとか。	810	K5	8-1~2
61	ジャレド・ダイヤモンド	COLLAPSE	文明が繁栄する場合と崩壊する場合の分岐点は？『銃・病原菌・鉄』の著者が再び人類史全体を描き、グローバル社会の脆弱性に警鐘を鳴らす。和訳も原書も図書館にあります。	837	D2	1
62	ティナ・シーリグ	What I Wish I Knew When I Was 20	常識を無視するのではなく、それを疑い、常に新鮮な目で周囲を見回すこと…。未来を見据え、未来を担う北野生に是非読んでほしい。和訳と原書の両方を並べて読み進めては？	837	S9	1
63	J・D・サリンジャー	ライ麦畑でつかまえて	アメリカ、日本。国が変わっても時代が変わっても高校生の悩みは同じかも知れない。主人公ホールデン君の感性が光る。『キャッチャー・イン・ザ・ライ』のタイトルで村上春樹訳もあります。	908	A1	1-20

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
64	エミール・ゾラ	居酒屋	手元にある金ですぐに酒を飲む男、食いぶちを稼ぐため懸命に働く女。貧しい庶民の生き様、悲しさ、遅しさを存分に描いた秀作。	908	C1	1-46
65	スタニスワフ・レム	ソラリス(の陽とともに)	レムはポーランド出身(誕生した町は現在のウクライナ領)の20世紀最大のSF作家である。人間以外の「生命体」とのコミュニケーションがテーマとなっており、少し哲学的で、レムの知識人としての側面も垣間見える。複数回映画化されている。	908	S21	1-23
66	石牟礼道子	苦海浄土(3部作)	「この日はことにわたくしは自分が人間であることの嫌悪感に、堪えがたかった。釜鶴松のかなしげな山羊のような、魚のような瞳と流木じみた姿態と、決して往生できない魂魄は、この日からわたくしのなかに移り住んだ。」(本文より)。独特の文体で書かれたこの作品の第1部「苦海浄土」が刊行されたのは1969年。その後第3部まで書き継がれた。池澤夏樹個人編集「世界文学全集」の中に、日本語作品としてただ1つ選出。	908	S30	3-4
67	リービ英雄	英語でよむ万葉集	英語を鏡として日本語の原点に挑む。対訳だけでなくエッセイも付されているので、万葉秀歌の新しい鑑賞法としても面白い。	911	L1	1
68	道浦母都子	女歌の百年	与謝野晶子の『みだれ髪』が刊行されたのが1901年。この本は、それから今日までの百年間に詠まれた女性歌人の作品と生涯をたどりながら短歌の魅力を語っています。著者は現代の代表的歌人の1人で、本校78期のOGでもある。	911	M26	12
69	芥川龍之介	地獄変	「地獄変」の屏風を完成するために、ひとり娘を火にかける！ 芸術のためには自分の娘をも犠牲にする絵師の異常な執念を描く。芥川作品の中でも鬼気迫る一篇だろう。	913	A3	3b
70	浅田次郎	蒼穹の昴	清朝末期の激動の時代に懸命に生きる人々の姿を、壮大なスケールで描く歴史小説。「私はこの小説を書くために作家となった」という作者の弁がある。	913	A31	1-1~2
71	阿川弘之	井上成美	立場の異なる人の意見を聴くことのできる度量、情報を批判的にとらえることのできる理知と教養、「お上」にももの申すことができる勇気。将来組織のリーダーになるであろうみなさんに。	913	A8	5

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
72	平野啓一郎	葬送	19世紀前半を生き、ピアノの詩人ショパンの生き様を描いた大著。ドラクワとの親交を軸に、ショパンを取り巻く社交界、コンサート、病魔などを淡々と描いていく。当時のヨーロッパ情勢を知っておけば、より味読できるだろう。	913	H45	2-1~2
73	小林多喜二	蟹工船	オホーツク海で操業する蟹工船は、乗員たちに過酷な労働を強いることで暴利を貪っていた。それに反抗する乗員たちのストライキを描いた、プロレタリア文学の代表作。——非正規社員切捨てなど、最近の格差社会問題の中で注目を浴び、ベストセラーになった。現代社会にも通じる多くの問題をはらむ作品。	913	K54	1b
74	川端康成	掌の小説	短編の得意な作家は結構多い。専門家からみた場合の評価はわからないが、しみじみしたもの、幻想的なもの、ちょっとグロテスクなものなど、作風の多様性に驚かされる。	913	K9	19
75	三島由紀夫	金閣寺	1950年国宝金閣寺放火・焼失という歴史的な事件を題材にした、三島由紀夫の代表作。同じ事件を題材にした水上勉『五番町夕霧楼』と読み比べてみるのも一興。	913	M13	8b
76	夏目漱石	文鳥・夢十夜	知識人である夏目と文学者である漱石がほどよくブレンドされている。国語教科書の定番以外で漱石を知りたい人には、是非読んでほしい。	913	N2	9
77	夏目漱石	こころ	国語の時間に取り上げられることも多い。親友を裏切って恋人を得たが、親友が自殺したために自らも死を選んだ先生と、その先生と出会った主人公の視点から描かれた作品である。世代を超えてもっとも有名な日本文学と言えるこの作品は、のちに無数の評論や研究を生み出した。	913	N2	8b
78		日本文学100年の名作 全10巻	第一次大戦から現在までを10年ごとに区切り、その間の名作をまとめてある。短編中心だが、日本の現代文学の魅力をもっと味わうことができる。	913	N67	1-1~10
79	小川洋子	博士の愛した数式	80分しか記憶が持たない博士と私と息子の愛の物語。数学の美しさに触れることのできる一冊。	913	O29	4
80	小川洋子	人質の朗読会	ゲリラ事件で人質になった人々が、自分たちの日常を夜ごと語り合う。切羽詰まった状況でこそ、何でもなかった日常が輝いて見える。そして、それぞれの朗読を終えた人質たちは……	913	O29	10

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
81	須川邦彦	無人島に生きる十六人	生きるための知識がいっぱい。おもしろおかしく、たくましい無人島でのサバイバルが描かれている。様々な人がいて、それぞれの長所、短所が無人島で生きている。楽しく読める本です。	913	S2	2
82	司馬遼太郎	項羽と劉邦	歴史小説の大家が、司馬遷の『史記』の世界に挑んだ作品。漢文の授業でも「項羽と劉邦」のさわりを学習するが、本書を読めばその背景が一段とよくわかるだろう。人間の生き様を描くのが小説だとするならば、これこそ最高の見本。	913	S44	11-1~3
83	梶井基次郎	檸檬	31歳の若さで夭逝した北野OB作家の作品集。青春の不安、焦燥を、鋭敏な感受性によって表現した、その独自の詩的散文世界は昭和文学の奇蹟と言われる。卒業までに読んでおこう。	913	S75	1
84	谷崎潤一郎	春琴抄・盲目物語	文体に特徴があり、息の長い文で書かれる。背景となる知識も少し必要だが、本編の長さは短く読みやすい。谷崎潤一郎は村上春樹と同じく(時代は異なるが)世界的に注目されている日本の作家。春琴と丁稚の佐助の関係は考えさせられる。	913	T6	5
85	沖方丁	天地明察	とにかく面白い本が読みたい！というときはコレ。時代劇があまり好きではない人でも、文句なしに面白くて夢中になれる。「学問は楽しい！」ということと、情熱のすばらしさを教えてくれる本。	913	U13	1
86		与謝野晶子 訳 源氏物語	源氏物語を原文で通読するのは簡単ではないが、口語訳で挑もう。瀬戸内寂聴の訳もばつぐんに読みやすい。角田光代の訳もある。時代時代、訳者ごとの解釈や味わいの違いも楽しい。	913	Y9	2-1~3
87	北野武	新しい道徳	道徳を教育することの胡散臭さ、気持ち悪さを平易に語っている。北野武は知性ある教養人だ。道徳は時代とともに変わる。価値観や思想の多様性を認めるのがリベラル・デモクラシーだ。学校で一つに染めあげて、何をやるつもりなのか？ 武の結論「道徳がどうのこうのという人間を、信じちゃいけない。」	914	K60	2
88	高野てるこ	淀川でバタフライ	著者は北野OGのエッセイスト。「爆笑日常エッセイ」と銘打たれている。十三大橋下の淀川でバタフライをしたことなど、北野高校時代の思い出も数多く綴られている。とにかく思いきり笑えて元気の出る本。	914	T57	5
89	安部公房	砂の女	戦後前衛文学の旗手安部公房の代表作。奇想天外な場面設定とサスペンス調の展開で一気に読ませる。海外での評価も高い作品。安部自身が脚本を書いた映画も有名。	918	A5	1-6

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
90	小林秀雄	モーツァルト・無常といふこと	近代評論の古典。小林美学の集大成であり、近代批評の一つの達成である。本書中の多くの文章がかつての大学入試問題に出題されている。一度は読んでおきたい。	918	K3	2-8
91		コレクション戦争と文学 全20巻	戦後70年を経て、今こそ読んでおきたい。生々しい激戦地を描き、戦争の不条理を訴え、9.11テロを語る。芥川龍之介の戦争文学も収録されているが、どんな作品か想像できるだろうか？	918	K33	1-1~21
92	オルハン・パムク	わたしの名は紅	イスラーム世界の絵画技法を巡る画家たちの対立。最初にしゃべり出す「屍」を含めて、全編が一人称で語られるミステリ仕立ての小説。	929	P2	1
93	ウィリアム・シェークスピア	リア王	シェイクスピア4大悲劇のうちでもっとも日本人的な話。姥捨て山をも思わせる。16世紀にすでに高齢化社会を批判して、今なお鮮烈な印象を与える。娘に裏切られ荒野をさまよう姿には思わず涙してしまう。さいごには末娘の死にも遭遇。どこまでも続く悲劇の連鎖である。	932	S1	12
94	アーサー・C・クラーク	2001年宇宙の旅	スタンリー・キューブリックとアイデアを出し合い、1968年に映画とともに出版されたSF小説。月にすむ人類、発見される謎の物体、人工冬眠する宇宙船乗組員、そして、人工知能コンピュータによる乗組員の殺害など、SFチックな要素が満載。ミステリアスな雰囲気と緊迫感がほどよく混交した傑作である。	933	C26	1
95	F・スコット・フィッツジェラルド	グレート・ギャツビー	アメリカン・ドリームの崩壊とイノセンスを描いたアメリカ文学の代表的作品。村上春樹の訳文もさることながら、原書の流麗な文体、気の利いた描写も是非あわせて読んでほしい。主人公の痛々しいまでの純粹さに胸を打たれる。多感な高校時代に読んでおきたい一冊。	933	F13	1
96	カズオ・イシグロ	わたしを離さないで	楽しかった学校生活を回想するキャッシー。だが未来を約束されない少年少女の生活には秘密があった。臓器移植という難しい問題に触れる切ない物語で、他人ごととは思えない。映画も良作。	933	I2	3
97	T・E・カーハート	パリ左岸のピアノ工房	ピアノの作製法を描いた本ではない。著者とともにピアノのすばらしさのすべてを疑似体験する不思議なノンフィクション。音楽の持つ力の大きさと、それを語り尽くす言葉の重要性を認識し、読んだあとほっこりできる。	936	C2	1
98	ヘルマン・ヘッセ	車輪の下(で)	ヘッセはかつて、日本の学生たちにもよく読まれた作家である。読書感想文コンクールの常連だったヘッセの入門書ともいべき作品。『春の嵐』『デミアン』などとならぶ青春小説。	943	H2	2

番号	著者	書名	推薦文	記号1	記号2	記号3
99	フランツ・カフカ	変身	ある朝目覚めてみれば、自分が巨大な毒虫に変身していた——この有名な冒頭場面から始まる不思議な味わいの物語。シュールかつリアルというカフカの迷宮世界への入門書。20世紀文学を代表する一冊。	943	K4	2
100	アルベール・カミュ	ペスト	医者のリューを語り手として、アルジェリアのオランという町を襲ったペストと戦う市民たちの物語。この世の大きな災厄に対して立ち向かう唯一の方法は、人間の結束と連帯、そして関与と誠実さなのだと言ってくれる。	953	C1	11
101	アルベール・カミュ	異邦人	主人公ムルソーは殺人の理由を問われ、「太陽が眩しかったから」と答える。作者は序文で「演技をしないとその社会では異邦人とみなされるほかない。彼は嘘をつけなかっただけ。」と書いている。——人間社会の不条理を描いた、実存主義文学の代表作。	953	C1	10b
102	サン・テグジュペリ	星の王子さま	子供から大人になることは、純粋さを失っていくことと言われる。本書は、自分がどの程度子どもの「純粋な心」を保っているかを測るバロメーターとなるだろう。	953	S10	7
103	ドストエフスキー	カラマーゾフの兄弟	まぎれもない世界文学の傑作。読み出したら止まらない圧倒的迫力。「人生について大切なことはすべてこの本に書かれている。」新訳が古典作品としては異例のベストセラーになったのもうなずける。	983	D1	4-1~5
104	ドストエフスキー	罪と罰	「一つの微細な罪悪は百の善行に償われるのか？」自分が起こした殺人事件のせいで罪の意識にずっとおびえる主人公。そんな彼に何が待っているのか。ドストエフスキーの名作といわれているこの本。難しいのかもしれませんが、高校生が多感な時期にこそ、ぜひ読んでほしい。	983	D1	7-1~3
105	アレクサンダー・ソコlov	チェルノブイリの祈り	チェルノブイリ原発事故とその後を丹念に取材したドキュメンタリー。読まなくても内容が想像できる、と思っている人は大いに間違っている。	986	A1	1